

平成25年度修学生の集い開催報告

茨城県では、昨年12月26日に2回目となる「修学生の集い」を開催しました。

3部構成で実施し、第1部では、修学生医師及び自治医科大学卒業後医師による症例発表会を行い、参加者から「近い世代の先生方の発表をまとまって聞ける機会が少ないので、貴重な時間だった」などの意見をいただきました。

第2部では、世界でご活躍されている京都大学教授の河合江理子さんから講演をいただき、参加者から「普段学ぶことができないコミュニケーションや異文化について学ぶことができ有意義だった」などの声をいただきました。

第3部では交流会を行い、県内各病院の院長先生から医学生まで、幅広い年代の方々が集まり、コミュニケーションを図ることのできる、大変意義のある時間となりました。

今後も年に1度開催していきますので、ぜひご参加ください。



優秀賞 大久保 初美先生



優秀賞 真船 太一先生

症例発表

発表テーマ	氏名	所属医療機関
Late onset GBSIによる蜂窩織炎に敗血症を伴った一例	鈴木 竜太郎	水戸済生会総合病院
肺野のみに陰影を認めたサルコイドーシスの一例	大久保 初美	常陸大宮済生会病院
ステロイドパルス無効の間質性肺炎の治療経験	金野 直言	水戸赤十字病院
アルコール乱用者に発症し、血液浄化を要した横紋筋融解・AKIの症例	市毛 博之	県立中央病院
下壁誘導で著明なST上昇を来した後、血行動態の破綻に至った重症肺血栓塞栓症の一例	萩原 希望	水戸済生会総合病院
大腿骨頸部骨折の一例の回復期医療を経験して	星 徹	水戸済生会総合病院
tPA投与により救命した肺血栓塞栓症の1例	渡辺 裕介	北茨城市立総合病院
4年間を振り返って	阿久津 善光	水戸医療センター
地域研修での腹腔腫瘍の一例	須藤 洋輔	水戸済生会総合病院
腹腔内遊離ガスを伴い消化管穿孔との鑑別に難渋した腸管囊腫性気腫症の1例	真船 太一	県立中央病院
大腸憩室出血の既往を有し、出血源検索に苦慮したメッケル憩室出血の1例	宮田 理紗	筑波大学附属病院
はじめての外来	小田 有哉	なめがた地域総合病院

総合的な診療能力について学び考えるシンポジウム開催報告

内容	講師
第1部 総合的な診療能力に求められるコミュニケーション術	
特別講演「臨床医学を学ぶ意義」	筑波大学医学医療系教授 我妻 ゆき子氏
トークセッション「コミュニケーションの力、プレゼンテーションの力」	筑波大学医学医療系教授 我妻 ゆき子氏 京都大学国際高等教育院教授 河合 江理子氏 オレゴン健康科学大学家庭医療科助教授 大西 恵理子氏
第2部 総合的な診療能力の本質に迫る	
第1セッション「総合的な診療能力で問われているもの」	
プレゼンテーション①「かかりつけ医の役割と求められる能力」	医療法人アスム理事長 太田 秀樹氏
プレゼンテーション②「総合診療医の魅力と可能性」	筑波大学附属病院 総合診療科 教授 総合臨床教育センター部長 前野 哲博氏
ディスカッション「総合的な診療能力について掘り下げる」	オレゴン健康科学大学家庭医療科助教授 大西 恵理子氏 筑波大学理事・副学長／附属病院院長 五十嵐 徹也氏 医療法人アスム理事長 太田 秀樹氏 筑波大学附属病院 総合診療科 教授／総合臨床教育センター部長 前野 哲博氏
第2セッション「最先端の高度医療を学び、その先のQOLまでを考える」	
プレゼンテーション①「いばらきから創出する次世代がん治療“BNCT”」	筑波大学附属病院副院長 脳神経外科教授 松村 明氏
プレゼンテーション②「ロボット手術HALと機能再生・改善治療への展開」	筑波大学大学院 システム情報工学研究科 教授 筑波大学 サイバニクス研究センター センター長 CYBERDYNE株式会社 代表取締役社長／CEO 山海 嘉之氏
ディスカッション「科学と医療、開発と普及、そして人々の未来を考える」	京都大学国際高等教育院教授 河合 江理子氏 茨城県立中央病院院長 永井 秀雄氏 筑波大学附属病院副院長 松村 明氏 CYBERDYNE株式会社 代表取締役社長／CEO 山海 嘉之氏

茨城県では、これからの超高齢化社会の到来に伴い、1人で多くの疾患を抱える患者さんに対応できる医師や、在宅医療を担う医師の役割がますます重要となってきたことを踏まえ、「総合的な診療能力」をテーマとしたシンポジウムを本年2月16日に開催いたしました。

当日は、世界でご活躍する女性達によるトークセッションや、「つくば」の世界最先端の高度医療の講演や患者のQOLについてのディスカッションなどを実施したところ、355名の方々にご来場をいただき、盛大裡に終えることができました。

参加者からは、「講義内容が具体的に非常に分かりやすかった」、「総合的な診療能力の正しい理解ができ、その必要性、大切さを強く感じた」との声をいただき、参加者の関心の高さを感じた次第です。

県といたしましては、今後とも、若手医師の育成、被災からの地域医療の復旧・復興をはじめ、本県の医療提供体制の整備に全力を尽くしてまいります。



トークセッション



ディスカッション

平成25年度茨城県地域医療支援センター主催のイベント

平成25年度修学生の集い

●12/26(木) ●ホテルレイクビュー水戸



参加者の声

- 大切なスキルであるコミュニケーションについて色々と学べて良かったです。(医学生 男 20代)
- 私は現在医学生として、基礎を学んでいる段階で、臨床についての知識はほとんどありませんでしたが、今回症例発表会に参加した(聴講させていただいた)ことで、基礎からきちんと積み上げて勉強していることが強くなりました。非常に貴重な経験になったと思います。また、記念講演では、毎日の勉強のなかでも世界に目を向けながら、生活していくことが大切だと改めて思いました。(医学生 女 20代)
- 自分の今後のビジョン、これから何をすべきか。どう変わっていくか。色々考えさせられる機会となりました。(医師 女 20代)
- 大変有意義な集いだと思います。一般演題の発表だけでなく、テーマを決めて若手医師によるテーブルディスカッション等してもよいと思います。(医師 男 50代)

総合診療を学ぶ特訓ゼミ 第3シリーズ

●2/15(土)~16(日) ●茨城県教育研修センター、つくば国際会議場



参加者の声

- 私は総合診療についてあまりよく知らずに参加したのですが、今回、総合診療の役割と目的を少し理解できたように思います。各々の先生方が楽しそうで、またやりがいを持って医療に携わっていて、そこもとても魅力的でした。病院実習では今回学んだことを意識しながら臨みたいと思います。
- 専門医に加え、プライマリケア医がなぜ必要か、特に日本での必要性についても学ぶことができ良かったです。プライマリケアの考え方、見方が180度変わったので、もっと知りたいと思いました。
- 自分で普段学ぶことの少ない行動変容について学べたのは有益だった。
- 雪の中参加した甲斐がありました。もともと総合診療には興味があったのですが、より一層興味がわき、同時に新しいことをたくさん知る良いきっかけとなりました。ぜひ次のシリーズにも参加したいです。
- 病院実習で忙しくしていたことで、忘れていた大事な視点を再認識できて良かったです。
- 総合診療は患者さんの幸せを考える科であり、これが医療の本質であると思った。

総合的な診療能力について学び考えるシンポジウム

●2/16(日) ●つくば国際会議場大ホール



参加者の声

- 医療の現場だけでなく、広く活用できる内容でした。男性女性という狭い視点でなく日本人としての弱み強みという大きな視点で語られていたことも印象に残りました。
- 私は将来薬剤師になる人間として、このような総合診療や在宅医療を行うにはたくさんの方を考慮していかなければならないと感じました。
- 治療の選択肢が増えること、予防の段階で防げることが期待されるとともに、自分なりに出来ることを考えたいと思います。
- 私は医療関係者ではありませんが、製造業にたずさわる者として医療機器にもチャレンジしてみたくなりました。本日はありがとうございました。
- 筑波大学を中心に、このような革新的な医療技術の研究、開発がなされている事に、大変感佩深い思いがします。さらに今後の発展を期待しています。将来に明るさが、見えてきました。すばらしい講演会をありがとうございました。

病院紹介コーナー

筑波大学附属病院

当院は特定機能病院として高度医療を提供すると共に、若手医師の教育を担う大学病院として充実した指導体制、研修管理体制、教育資源のもと研修を行っています。当院の初期臨床研修は、大学病院と市中病院の両方の利点を積極的に取り入れたプログラムです。ジェネラリスト志向者にもスペシャリスト志向者にも対応できるように、研修診療科ごとに大学病院と市中病院を選択することができ、一人一人の希望に応じて最大16か月市中病院での研修が可能であり、また、2年間通して大学で研修することも可能です。県内全ての基幹型研修指定病院が参加する豊富な病院

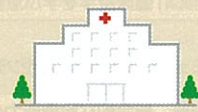


群を組んでおり、中でも筑波大学地域医療教育センターを併設している病院では、豊富な症例を経験できる市中病院で大学教員から直接充実した指導が受けられます。

研修は総合臨床教育センターが2年間を通して体系的にコーディネートしており、専任の医師(3名)がキャリア支援やメンタルサポートなど多方面に渡って研修医をサポートしています。また、卒後臨床研修評価機構の国立大学病院初の認定施設です。

毎年70名前後の研修医が在籍しており、たくさんの仲間と一緒に研修が可能です。筑波大学以外の出身者も毎年25名前後マッチしていて、出身大学による差は一切ない研修環境です。

皆様と一緒に働ける日をお待ちしております。



研修医Relay Essay 加藤 大智

友愛記念病院

研修医1年目

加藤 大智



医学部生のみなさん、こんにちは。友愛記念病院の研修医1年目の加藤大智と申します。言うまでもなく、私もついこの間までは、皆さんと同じ学生でした。ですので、病院では新しい科を回る度に、わからないことだらけで、その都度先生方や看護師さん方から丁寧に教えていただいています…(笑)

今みなさんは、臨床の勉強やポリクリで、毎日がワクワクしていることでしょうか。自分の興味がある科や、国家試験に向けて、将来のことを考えて、ワクワクしながら勉強をしていることと思います。

私が、研修医になって特に印象深かったことは、医療は各病院、各病棟の「チーム」で動いていて、各スタッフのコミュニケーションがとっつても大切であるということです。(当たり前かと思われるかもしれませんが、のんびり屋な私は、研修医になってようやく実感が持てたと言う感じです(笑))

特に、私のような新人は、先生だけでなく、ナースやME、放射線技師や事務の方々など、他職種のベテランの方々から、学ばせていただくこともたくさんあります。

ですので、私からのアドバイスと言っては恐縮ですが、みなさまもぜひ学生のうちから、「あいさつ、笑顔、お礼の一言、ちょっとした会話…」といった、相手と良い関係を築けるような、コミュニケーション能力や、人に好かれるような「人柄」というものを、改めて意識しておいたほうが良いのではないかなと思いました。

また、働き始めたら、言うまでもなく忙しくなってしまいます。学生のうちに、「やりたいこと」、「やり残したこと」、「好きなこと」は、しっかりやっておくべきだと思います。勉強もしっかりやりつつ、学生のうちに、クラスや部活、他大、他学部の友人たちと、よく食べ、よく遊び、よく飲み…(笑)、コミュニケーション能力と温かい人柄を磨いておくといいと思います。

とりとめのない話になってしまいましたね。(笑)長文、最後までお付き合い下さり、ありがとうございました。

臨床研修病院 病院見学対応状況

	医療機関名	見学時間	対象	宿泊	問い合わせ先
1	水戸赤十字病院	随時(平日)	5～6年生	近隣の宿泊施設を紹介	担当者:企画課 小松崎 TEL:029-221-5177(内3155) e-mail:kikaku@mito.jrc.or.jp
2	水戸協同病院	随時(平日)	全学年	学生用宿舎に宿泊可能 (要確認)	担当者:庶務課 医局秘書 福家 TEL:029-231-2371 e-mail:residency@mitokyodo-hp.jp
3	水戸済生会総合病院	随時	全学年	院内施設に宿泊可能(無料)	担当者:総務課 山本 TEL:029-254-5151 e-mail:resident@mito-saisei.jp
4	水戸医療センター	随時(平日)	5～6年生	可能(無料) 院内の施設宿泊可能	担当者:教育研修部長 廣瀬一郎 TEL:029-240-7711 e-mail:i.hirose.d@mn.hosp.go.jp
5	茨城県立中央病院	随時(平日)	全学年	院内施設(無料)に宿泊可能 (要相談)	担当者:総務課 鶴井、田口 TEL:0296-77-1121(内線5777) e-mail:kenshu@chubyoin.pref.ibaraki.jp
6	(株)日立製作所日立総合病院	随時(平日)	全学年	近隣の宿泊施設を紹介	担当者:総務グループ 石井 TEL:0294-23-1111(内線4234) e-mail:saiyou.nichibyoin@hitachi.com
7	(株)日立製作所ひたちなか総合病院	随時(平日)	4～6年生	院内施設に宿泊可能 ※場合により近隣宿泊施設を紹介	担当者:事務局総務係 渡辺 TEL:029-354-6841 e-mail:akihiro.watanabe.vr@hitachi.com
8	土浦協同病院	随時(平日)	全学年	近隣の宿泊施設を紹介	担当者:庶務課 木村 TEL:029-823-3111 e-mail:general@tkgh.jp
9	霞ヶ浦医療センター	随時(平日)	4～6年生	可能(無料) 院内の施設宿泊可能	担当者:臨床研修担当 TEL:029-822-5050 e-mail:3102sy01@kasumi.hosp.go.jp
10	筑波記念病院	随時(平日)	全学年	近隣の宿泊施設を紹介	担当者:臨床研修担当 古矢 TEL:029-864-1212 e-mail:furuya@tsukuba-kinen.or.jp
11	筑波大学附属病院	随時(平日)	全学年	可能 学内宿泊施設等 料金:2,500円～3,000円	担当者:病院総務部総務課(教育支援) TEL:029-853-3516、3523 e-mail:kensyu@un.tsukuba.ac.jp
12	筑波メディカルセンター病院	随時(平日)	全学年	近隣の宿泊施設を紹介	担当者:総務課 谷田部 TEL:029-851-3511 e-mail:kensyu@tmch.or.jp
13	筑波学園病院	随時(平日)	全学年	近隣の宿泊施設を紹介	担当者:経営企画室 笹島 TEL:029-836-1286(内線2341) e-mail:kei-kikaku@gakuen-hospital.or.jp
14	東京医科大学茨城医療センター	随時(平日)	全学年	可能(無料) 研修医の宿舎に宿泊可能	担当者:卒業臨床研修センター 田中 TEL:029-887-1161(内線1490、7274) e-mail:ksotsugo@tokyo-med.ac.jp
15	牛久愛和総合病院	随時(平日)	全学年	近隣の宿泊施設を紹介	担当者:人事部 野中宏修 TEL:029-873-3111 FAX:029-874-1031 e-mail:nonaka@jojinkai.com
16	つくばセントラル病院	随時(平日・土)	全学年	近隣の宿泊施設を紹介	担当者:経営企画室 久松辰男 TEL:029-872-1771 FAX:029-874-4763 e-mail:tatsuo.hisamatsu@central.or.jp
17	JAとりで総合医療センター	随時(平日)	5～6年生	近隣の宿泊施設を紹介	担当者:前田益孝 TEL:0297-74-5551 e-mail:toride@medical.email.ne.jp
18	総合守谷第一病院	随時(平日)	5～6年生	近隣の宿泊施設を紹介	担当者:佐川俊英 TEL:0297-45-5370 e-mail:sagawa@moriya.daiichi.or.jp
19	友愛記念病院	随時(平日・土)	5～6年生	遠方者には宿泊先を提供	担当者:総務課 稲見 TEL:0280-97-3000 e-mail:yuai@yuai-hosp-jp.org
20	茨城西南医療センター病院	随時(平日)	全学年	可能(無料)研修医の宿舎に 宿泊可能(要確認)	担当者:庶務課 西原 TEL:0280-87-8111 e-mail:shomuka@seinan-mch.or.jp

茨城県からのお知らせ

修学生・修学生医師およびi-doctorで登録住所の確認について

いつも「いばらきの地域医療」をご愛読いただき誠にありがとうございます。

修学生・修学生医師およびi-doctorで登録で本誌郵送を希望されている方で、勤務先の変更や転居により送付先住所に変更が生じた方は、「茨城県地域医療支援センター」(下記)までぜひご連絡ください。新しい住所へお届けします。

なお、i-doctorで登録情報の変更については、地域医療支援センターホームページ内の「i-doctorお申込受付」でも承っております。よろしくお願いたします。

茨城県地域医療支援センター

茨城県水戸市笠原町978番6(保健福祉部医療対策課内) TEL:029(301)3191

<http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/isei/ishikakuho/top/index.html> E-mail:i.doctor@pref.ibaraki.lg.jp